

(表紙)

明

元治三庚午日録

七

(一)

月朔日以手紙啓上仕候、月迫ニ相成嘸々御繁用
奉察上候 一今般府中御上様来
年頭之義申上度者共は歎願可出候様被仰

付依之上御領夫々願達いたし候間左様

御承引可被成候、以上 十二月卅日 森広三郎

坪川武兵衛様 五十嵐嘉兵衛 自分ノ名

願達写ノ一 数百年来御慈悲之御下ニ渡世

仕難有仕合奉存候、今般御变革之段

奉恐入候、何卒是迄之通御館内

御出入之義御許容被成下度伏而奉

願上候、以上 右之通りニ御座候

右ハ稻寄〇到来、外ニ種池坪川〇添書、紙面如何被成候哉ト

此方江問合御さ候

六日 野中小嶋江年礼、音物被持遣ス、使喜平、同人手前手間

ニ而行、音物別長ニ記ス

四日 長百姓ニ而多蔵府中年礼ニ行、府中・福井年礼

致廻勤、七日夕方帰村、平兵衛同道

七日 当年初而左義長もやし申候

十日 晩方野中小嶋五左衛門殿・権七兩人来り年礼、泊り

十三日 小嶋朝帰村、藤助方初御講参り、かゝり銀式拾匁

十四日 昼後出かけ岩堀江年礼ニ行、二晩泊り

十六日 昼前牧安へ着、同所ニ而昼飯たべ福井御家中廻勤、牧安ニ

二宿致し候

十八日 昼後牧安を出晩方帰村

□日 退役一件ニ付多造・千代蔵兩人民政寮行キ牧安へ立寄昼

飯たべ候由、多造は弁当持参ニ而行昼飯「 」

(二)

廿一日 安沢村新左衛門昼後年礼ニ見エ

廿二日 朝宮岩堀家内并おひろ兩人・家来下男・下女ハ四人来り泊り

下男は廿三日朝帰る

助右衛門福井江肴買物ニ頼遣ス

廿三日 肴不足ニ付早天又助右衛門福井江肴買物ニ行、朝飯不食昼飯

斗り爰ニ而喰、多蔵・千代三郎兩人波寄江退役一件頼ニ行

右両度に式拾五匁助右衛門へ手間代遣ス

廿四日 岩堀家内并下女式人昼後朝宮江帰村致ス

多蔵野中小嶋江行年礼、夫の三国へ行、同日野中泊り

廿五日 久米次郎并安沢弥十郎・新造三人昼よひ 久米次郎 七拾匁 新造 五拾匁

弥十郎 五拾匁

廿五日 晚方御所垣内元右衛門卜申者之女卜申、一夜明させ呉候様頼二付一夜

留申候

廿五日 多蔵三国加藤二泊卜申ス

廿六日 昼前多蔵三国の帰村

二月四日 小嶋豊太郎砂子坂養子一件二付目録其他したゝめ物へ行泊り

五日 小嶋二逗留

六日 朝早天五左衛門・豊太郎同道砂子坂行、晚方帰村、権七・新村順助

兩人致同道此方二而泊り

七日 朝野中家来兩人引取り

十一日 安沢牧田年礼二見エ昼後來酒出ス、音進物

日記長二記ス、晚方帰村致ス

十五日 野中利兵衛京の帰りかけ来り、三晚泊り

十七日 新保教法寺子息来り、泊り

十八日 利兵衛・新保兩人昼前帰村

十九日 牧安来り、朝宮むこ入一件二見エ泊り、器子菓老枚

もらひ翌朝廿日帰福

廿日 亀次郎野中江朝宮むこ入間違被知二行キ

源太郎福井江小かなかしら買二行晚帰村

廿一日 源太郎福井江赤万買二行晚帰村、并栃谷村庄兵衛家内へかし

銀五十匁牧安迄源太郎を以相渡ス

廿六日 出福、天井弥助二而弁当致シ夫の牧安へ着、廿六日夕飯の

(四)

廿七日 昼飯迄牧安、昼後帰村

廿八日 喜兵衛出福、天井の座ぶとん取、牧安の預ケ物取

廿九日 善六出福福井肴屋清三郎江肴取二行

晦日 善六出福、三方・瓶子・稲穂失念二付借用二行

同日岩堀門左衛門父子・僕老人・牧安老人へ主従四人来り

芳太郎・牧安僕三人昼後帰宅、門左衛門殿泊り

三月朔日 昼後門左衛門殿并おひる僕・喜兵衛三人帰村 喜兵衛泊り

二日 朝亀次郎出福、油屋清三郎江書出取二行

書出出来不申跡のしらへ置卜申

昼後喜兵衛朝宮の帰村

六日 年来三右衛門方二預り居候村帳箆箆一引渡致度三右衛門頼二見エ

□二付平兵衛方二而致候様申来二付多蔵差越申候処村帳悉

- 致封付 ■ニ対シ相役嘉右衛門方へ預り □由多藏。承之前日
 村長作太夫来り申候ハちらはらとして右不用之書付は紛失
 致候而は不宜少々封候而宜様嘉兵衛申ト作太夫咄致候得共悉ク
 封候事は承り不申
- 七日
 是迄之五人組判頭相改り十人組ニ相成、村長善吉方
 ニ而其鬪引致候様歩行役五郎兵衛申来候ニ付此方行ニ不及
 五郎兵衛ニ鬪引来候様申聞ケ同人鬪引持来候書付
 表人数理右衛門判下甚兵衛・平三郎・庄兵衛・平右衛門
 新兵衛・五郎兵衛・門左衛門・林左衛門・孫右衛門ノ九人
 十四日
 昼後安沢新左衛門方へまねかれ行、泊り、大鯉節
 耆本持参
- 十五日
 昼後安沢を出平右衛門へ立寄晩方帰村
- 十八日
 田原町糸屋佐兵衛見へ松本松伊より亀次郎貫度旨
 申来ル、かまほこ耆枚到来、昼前来り、昼後帰福
- 廿日
 油屋清三郎子息肴代残り取ニ来り、耆貫四百匁相渡ス
 □煎餅耆袋持来り
- 廿四日
 夜御講与兵衛方自分参り
- (五)
- 廿九日
 昼前。晩方二度ニ右衛門方江よはれ昼御膳 夕そば
 窮民江銀子差出ス、使助右衛門、源次郎およき連嘉ニ右衛門方江除痘ニ行
 付落 三月廿四日 安沢新左衛門永徳寺。おきよ貫度使ニ来り、断り申
- 四月六日
 福井油町大久保佐助ト申人ト町人老人同道 永徳寺
 被頼来ト申、おきよ貫ニ来り、断り申
- 十日
 野中多助乞食ニ来り、昼飯被食もミ耆升五合とらせ
- 十三日
 松岡紙屋吉左衛門道具持来り、酒被呑晩方帰り
- 十六日
 朝出かけ朝宮岩堀行泊り、黒さと耆斤代三拾八匁 岩堀へ遺物
 万寿耆袋代式拾匁
- 十七日
 朝岩堀出立福井へ出村松へ立寄昼飯いたし夕方
 帰村
- 十八日
 夜清兵衛へそば切ニよはれ
- 廿一日
 里長弥五平村長方へ来り、自分行酒呑
- 廿四日
 多蔵三國祭ニ行、野中へ廻り泊り、翌日帰村
 源太郎同断、嶋ニ泊り翌日昼前帰村
- 廿七日
 昼後錠樋出来見分、矢崎鋏十郎并東御旗町
 次助ト云組の者ノ式人泊り
- 廿八日
 朝右両人引取り
 灯豊村平左衛門ト云者来り、干わらひ・竹の子式三本
 ちまき笹式把・蚊遣割木耆把ノ四品もらひ昼飯たべ
 させ帰り申候

五月朔日 昼前兵庫郷長勘左衛門方へ行、同人留主、家作普請中、ねりようかん

五拾匁持参子息庄之助へ渡ス、同所ニ而昼飯たべ昼後里長弥五兵衛
行、銀式拾匁菓子料持参、源五郎方へ立寄休息、源五郎江何も

不持、晚帰村、但喜右衛門同道

二日 昼後、安沢源右衛門へよはれ菓子器老枚・小梅老二品

持参、夕方帰村、山室栄助同道

同日 朝宮村岩堀江節句団子被持喜兵衛使ニ遣ス

三日 多蔵柿外江九谷急須取ニ行、昼寝中帰村

六日 村松喜十郎見へ銀式拾匁土産到来、晚帰福、白麦老升帰ニ遣ス

(六)

六日 福井春日町家根屋勘兵衛来り、昼飯後帰福

六畳間取分損見分ニ見へ

五日 昼過、もち苗取ニかゝり、おミ

六日 京もち 東大口水口百歩 同もち 五拾歩 ふか田

七日 同断もち 北まこも田四拾歩 べもち三ヶ所百九拾歩

七日 万徳早稲 六反田百五拾歩 まこも田道条四拾歩

同日 一ノ田百分 古苗代七十分 大水口百分 苗代七十分斗 べ早稲五百三十分

同日 田村 西井川 百式拾歩 東井川 百式拾歩

春の木 百五拾歩 べ同村三百九拾歩

九日 晚方迄ニ田植付仕廻

同日福井田原町肴や清三郎子息見へ昼飯被食岩堀聳入

節料理肴代残銀三百五拾匁相渡、此ニ而相済

十三日 屋敷廻り木蔭切、天菅生村儀右衛門・劔大谷村万右衛門ト申者ト式人
来り致ス

十四日 右木こなし割木致ス

十三日 昼前村長方ヨリ寄合之旨申越候故多造行候所、下川江は、改メニ付

兼而封候村長封切候由、其余帳封切致候様多ニを以申

越候得共封切不申候

十六日 出福、牧安へ行中食致し片岡江行、当年初而酒出、夫、村松へ行

夕飯致し柿外へ行、酒出、夜分牧安へ帰り泊り

十七日 朝飯後牧安、春日町屋根屋勘兵衛へ行、酒出中飯よはれ夫、

茶次郎江行、酒馳走ニ成牧安へ帰り晚帰村

牧安ニ而は十六日昼飯ト十七日朝飯斗

廿四日 茶屋次郎兵衛・久保町大こく屋・僕老人 べ三人来り、昼過、泊り

茶次郎土産は白さと巻包、右ミやけエキロス、一ツ・無幻書老枚

田中新蔵ニ写書老枚・大ビン一ツ中ニ焼酎三合斗有 べ四品

是は湖月抄為交易持来り、湖月は御泉水井原江

貸置候ニ付其段申、当日不遣ス、無幻ノ書代ニ笑溪山人金紙

書老枚茶次郎江遣ス、大こく屋はもとゐ三十は・すきあふら三ツ

廿五日
句ひひん付ニ銀三品ニ而代銀五六拾匁斗もらひ申候
但茶次郎江したゝめふり二枚かし
昼飯後右三人引取り茶次郎僕江銀三匁御引遣ス

(七)

廿日
屋根屋勘七来り、六疊間ひさし・屋根繕ひ同廿八日帰福
但九人相成、内老人半休ミ七人半代五拾匁ツ、ニ而渡ス
銀三百七拾五匁、外之内ニ而木作分三人半三百五拾匁
二口銀七百貳拾五匁、五月廿八日帰福之節相渡ス

六月六日
朝村出シ麦貳升、使喜兵衛を以村長善吉へ渡
同日
福井御坊・吉崎御坊両方而麦壹升・菜種壹升
上ル、寺番九右衛門へ相渡ス

九日
昼飯劔谷村万右衛門・七郎右衛門兩人来り、屋敷北ノ方三尺余り廻り
けや木貳本・三尺廻り斗よの木壹本ニ本、南平柿木下樁貳本
伐申候

十一日
どぼり大よの木枝折、身木は残し、劔谷七郎右衛門来り
伐

十四日
松岡紙屋吉左衛門来り、箱火はち并釣灯笼交易埒合ニ付
十八日
福井屋根屋勘兵衛より右社頭品数四ツ着、江上村九左衛門家内被知来り
舟賃拾貳匁ト右女申候ニ付同人江相渡ス

同日
右社頭中箱一・小台一ニ品晚方源太郎川はたニ上ケ
十九日
朝飯前社頭一喜兵衛上・下大台石一源太郎・喜兵衛兩人シテ上ル
廿一日
布施田弥助講加入願ニ付其方江銀五百匁使七太夫ト伝者江
銀五百匁包渡ス

廿三日
御坊所ニ一筆令啓達候、然者今般御坊所江諸宗

学校御取建ニ付民政御寮ニ御沙汰之次第ニ付早急
御示談被成度儀在之候間、近々之内嚴教寺殿・興源寺
殿御差向被成候間万端被為宜御取持被成上候様御頼
被仰入候、以上、御坊役所 午六月

廿四日
高屋村信行寺ニ而嚴教寺・興源寺・竹田作之助
出張致仮教院取立一件ニ付高屋信行寺迄罷出候様
書面ニ而被申越候ニ付高屋信行寺迄罷出候、教院
取立入費融通御頼ニ付米壹表御取替可申様申候
信行寺ニ而右高寺・竹田等ニ別れ帰村致申候

(八)

六日
廿九日喜兵衛出福、天井佐助へ銀遣ス、牧安弘致ス
茶次郎江瓶箱共鈴壹ニ品返ス、小豆貳升同所江遣ス
春日町屋根屋勘兵衛へ社頭代銀三百五拾匁
被指遣ス、井原江旧冬かけ物代残銀貳貫匁

是又被持遣ス、是二而相済

七月朔日

俄ニ出水、猫曲木枝東流候由長次郎・次助被知具候

ニ付、右両人頼ミ多蔵・源太郎卜四人行高江新右衛門舟通合

其舟をかりつりて迄積来り、内江帰る次助・長次郎両人ニ

酒被吞返し申候処少時して高江舟入用段申ニ付又

喜作忤新太郎被知候ニ付新太郎・長次郎・多三

亀次郎四人行、つりて。屋敷迄取寄セ上申候

高江新右衛門江舟かりちん三拾匁遣し申候

二日

庄屋善吉。柳助半日休日致度段申来候ニ付期出水致

休日所迄はなしと申候所、柳助帰り其由申伝江又来り

臯月上半日致度水出仕事も出来不申様押候而申来ニ付

自分申、遊たくは人を不さそわとも遊かよし、此方江相談ニ

不及、勝手次第致候段申越候所、押而善吉。触出

休日致申候事

七日

三国行、加藤ニ而昼飯、光成平七ニ而買物致ス、昼後喜兵衛迎ニ

来り、昼後帰村、きうり十五本・茄子廿同所江喜兵衛持来ル

銀式拾匁老母三十三回忌香料上、下女江五匁

七月八日

村長善吉方ニ而盆森致ス、当盆森時節柄ニ付買物悉

皆相止メ申候様前達而嘉右衛門へ申村長方江申通シ肴少も調不申

素麵ニ而酒一篇吞而已、膳の上平斗り、なすひ・しか・ねこんふ而已、自分行

多蔵へも致出席候様申候得共不行、膳上そうめん一「」鹿末引物

(九)

右之通外ニ何もなし、同日森不済

九日

昼前善吉方へ森ニ行、昼後不快不行、晚方五時行

野中村利兵衛・利平次両人昼時来り、昼飯たへ酒出シ同日帰村

但小嶋銀札三貫匁致借用度段申来り

十一日

野中小嶋盆礼、昼前半人喜兵衛手前之日ニ而行ク、昼寝起帰村

十二日

波寄川はた猪左衛門病死ニ付香貢三匁・見廻式匁二品千代蔵

迄出、佐太郎を以頼遣ス

同日

麻苳、多蔵・亀次郎・源太郎・喜兵衛・おミ。五人中前入五十分

三味河戸北三十五分二枚苳手離し、南三十五分十分斗苳

十六日

三国加藤修庵致病死候由飛脚来候ニ付、晚方自分供新造

召連両人行、泊り、新三江銀拾匁手間代善六江相渡ス

十八日

葬式仕廻晩方帰村、香貢百匁・忌中見廻式百匁・夜食見廻百五拾匁

寺香具三拾匁。四包帰村節おてつ・大助草疲致昼寝居候故

茶碗屋おりか江頼渡し帰る、加藤ニ二宿泊ル

廿六日

急度申遣候、二日市村理右衛門之義御用有之

夕六ツ時

候間村長同道明後廿七日朝六ツ半時当寮迄

着

罷可出者也、七月廿五日 民政寮 此配符持参

之事

廿七日 自分・村長作太夫同道出福牧安へ着、民政寮へ出伐木致
ニ付理右衛門之木は何方。申聞候共不切と申由如何之
訳ニ御さ候哉ト民政寮ニ而小倉篤三郎申聞候ニ付、右様之
事一切不申旨申候所、少時腰掛江控居候様小倉申候ニ付

(一〇)

良久待居其後罷出候様申ニ付又罷出候所、此度は出測ト申事ニ候
人物儘ニは利右衛門知り不申右人しらへ申伐木之趣意
色々申居候、長相談一々覚不申、何分早速切払可申
段申候而牧安へ帰り昼飯、作太夫ト兩人酒は此方。
持参之品さしミ壺盃牧安。出ス、其節浅宮岩堀
居合同人ト三人酒呑、跡。牧安。酒一銚子被出申候
廿七日 安沢村新左衛門。祭礼ニ付致入来候様前田。
約束ニ付罷出候積リニ致置候所右民政寮より申
来候ニ付不参、多蔵・佐太郎兩人参り申候
同日晩方帰村

八月朔日

お春・小市郎小兒并守帰村、此方。送り人喜兵衛・おなを

二日

出福、井原へ行昼飯後出測江伐木之事ニ付出願、夫。山方鳩ノ門内

井原江ニ拾刃ノようかん壺本持行

松原のぶ太郎方へ行伐木出願致ス、出測金札壺両持参不納、松原へ
金札式分指置不取テ、山方奉行ハ鳩ノ門内松原のぶ太郎・小道具町器師
勘之助兩人

三日

総会所江行銀札式拾貫刃替村松へ行昼飯、晩方帰村

二日

夜牧安へ行泊り、夜食ト三日朝飯而已、二日晚酒壺盃呑向。さはのすし

一はち取り此は現銀ニ払致ス、式拾刃お梅へ渡ス

同日夜木町出火

八日

兵庫出役鈴木金也村長善吉方江来り御用義申来候ニ付
気分悪敷候ニ付多蔵遣候所伐木義ニ付理右衛門屋敷木之
義は民政寮伺ニ相成候事ニ御さ候得ハ此方。伐レトハ難申付候
民政寮。見分有之迄相待候様鈴木被申候由多蔵承り帰申候
民政寮江申訳かならぬ様ニ相成候而者不宜候間先切トハ難申旨被申由

(一一)

十二日

出福、孫平・おな召連片岡へ行、兩人共弁当持参、同所ニ而

弁当遣ひ昼寝致ス、片岡江茄子七十・南京壺ツ持参

米善江茄子四十遣ス、片岡。東坡法帖一帖かり来り

同日晩方帰村

十三日

朝。麻はぎニかゝり

伝太夫酒札

十五日

昼時。安沢弥右衛門方江佐太郎連祭礼ニよはれ行、酒札壺升持参

廿三日 安沢弥右衛門・弥十郎兩人来り、鯉節壺本土産もらひ夕帰村
同村新左衛門忤新造来ル、さと箱壺ツ到来

野中〇五左衛門殿利兵衛殿兩人残り其跡皆来ル、土産
別帳ニ委記ス

浅宮岩堀芳太郎・藤二郎兩人来ル、ミやけ鯉節三本
菓子袋壺ツヅニ品もらひ

祭酒の肴大鯛焼一 三杯漬一 平目いりミ一 巻すし一
御膳 汁うり 平爪 やきふ 干瓢 牛蒡 芋 皿 小鯛

廿四日 浅宮芳太郎・藤二郎兩人泊り、昼後兩人の者・多三・源太郎・亀次郎
同道嶋村江相撲見ニ行帰り泊ル 野中〇到来之品

廿五日 昼後七ツ時〇浅宮兩人帰村致ス、三國万寿帰りニ岩堀へ
藤二郎江遣ス

九月二日 多蔵千代蔵卜同道竹生御上御見廻ニ出福、木町
主馬様御下屋敷ニ而御見舞申上金札壺両差上

申候処御請無之由多蔵申、牧安ニ而多蔵昼飯いたし
膳中ニ而酒呑候由、晩方帰村、上亦甚次・小倉篤二郎へも

(一一)

格式願罷出候所留主中不得面会、金札壺歩多蔵〇
小倉江遣留主中被差置候様申之

六日 昼後〇出福、牧安へ着出渕へ行、留主中御子息へ格式願咄致ス、夫より
鈴木重五郎殿へ行、慎中ニ而面会ならぬト申不逢、金札壺歩持行候処

不受、夫〇上ノ橋袋町鈴木金也方江行候処同人留主、親へ代木之致咄銀
五拾匁持参致候所不受、晩方牧安へ帰り泊り

七日 早朝小倉篤三郎方へ行、格式出願候事頼ミ牧安へ帰り朝飯
後嶋田田助へ行願書認メ民政寮江直ニ相納メ其足ニ而村松

立寄昼飯造作ニ相成昼寝後牧安へ帰り直ニ帰村
但牧安ニ而夕飯・朝飯而已、霄ニ膳ノ上ニ而酒少々呑、別ニ肴なし

九日 早朝夜明前朝宮おひろ初産、安産致ス、男子取上おなを腰た□
柳助山室采助夜分よびニ出かけ候所多蔵・亀次郎出水ニ而山室橋ノ辺行不申帰り

八日 福井江喜兵衛茄子五十ツ、村松・牧安・天井三軒江被持遣ス
大水出不能帰村ニ牧安ニ泊り、喜兵衛牧安ニ而九日朝飯而已ニ而

九日 昼前喜兵衛帰村
御本丸拝見ニ罷出牧安へ着、昼飯致し御本丸拝見

十六日 夫〇出渕・小倉へ行候所所留主ニ而不逢、晩方牧安ニ而
岩堀芳太郎面会、同道ニ而浅宮へ行泊り、牧安ニ而昼飯而已

十七日 牧安ニ而さはニツニ而岩堀芳太郎・栃谷庄兵衛ト酒呑、此払は自分〇致分
昼飯後岩堀出立、牧安へ来り泊り、夕方軍書へ行

十八日 昼前天弥ニ而酒呑牧安ニ而中飯、夕方帰村

廿六日 朝。野中小嶋へ行泊り
 廿七日 朝飯後出立、兵庫へ出源五郎方へ立寄致昼飯馳走二成
 格式願并村長役一件野村留主二付源五郎。咄頼夕方帰村

(一三)

廿九日 井原隠居并権之助・広部隠居・同子共壱人々四人遊二
 来り、晩方帰福致ス、小鯛五本・松茸数十本もらひ

晦日 トノ芋五本・はちや柿式十被持野村勘左衛門へ遣ス、とのいも五本・はちや柿三十被持
 野村源五郎方へ格式并村長役不来様頼状添遣ス、使柳助

十月二日 三国大助来り、昼飯たべ昼後帰湊、土産なし
 五日 兵庫氏調達銀之儀二付昼後行、雨天日暮二相成源五郎宅二
 止宿、調達百両可致旨里長迄野村。申通筈二頼置

六日 朝里長源五郎留主二付野村源五郎江頼二錢札六百貫文預ケ里
 長迄其晩方可届筈ニ致置、源五郎。仮受取書取帰村

但錢札六百貫文ニ而銀札式拾貫匁ニ相成ル、銀拾三貫匁差出候得ハ
 金札百両ニ相成候筈□

八日 源太郎出福、天井弥助江貞一うふ着取二行、牧安江浅宮行

手紙持参、同日昼後佐太郎同道自分兩人安沢弥右衛門
 黒鍬かり二行、夕飯たべ夕方帰村、はちや柿十五持行

十日 野中江芋持行秀三国へ出塩壺表求メ帰り、壱人おなを
 同日昼後小嶋来り泊り

十一日 五左衛門昼後出福、喜兵衛を被送呉候様申二付福井迄被送、但雨天二付
 十二日 出福、牧安ニ而昼飯、夫。天草町広部へ行晩迄酒呑、但酒は
 広部より、下駄・からかさ借用

十三日 手前持参、夫。村松へ寄夕飯、泊り

村松ニ而朝飯後広部からかさ・下駄返濟、井原へ行昼飯致ス、柿六ツ
 井原江遣ス、四五匁井原。牧安江来り、泊ル

十四日 帰村、但千代蔵ト牧安ニ而酒呑み牧安ニ而十三日夕飯ハ十四日朝飯而已

(一四)
 十五日 村松寿翁来り、銀貳貫匁、但錢札六拾貫匁ニ而貸ス、昼飯たへ
 帰福致ス、柚五ツ土産到来、印証入

十六日 浅宮孫渡貞一・おひろ并佐太郎連レ早天仙松舟ニ而行、送人喜兵衛・仙松
 もりもと夕方遅二舟ニ而帰村、自分・佐太郎無理ニとめられ二晩泊り

十八日 昼前佐太郎同道帰村

廿日 茶実求メ多蔵仙俗村迄行、三升七匁ツ、ニ而需晩方帰村
 閏十月四日 野中小嶋利兵衛見エ夕方帰村

同日 朝民政寮。配布、同日御用直ニ出福、牧安へ着民政寮江
 罷出候所其身一代袴縁上被差免候事、小倉篤三郎演舌

同日 下江戸町浅井小倉篤三郎江札二行 牧安ニ而四日昼飯。

- 五日 出渕并鈴木重五郎方へ礼二行、四軒而已 五日朝飯迄、同日昼村松
但村長差免方作太夫同道二而行 二而致し
- 閏月廿五日 喜兵衛不快引二付多左衛門申越晚方味噌豆九斗洗
水ニ浸ス、多左衛門夜食此方ニ而致ス
- 同廿六日 夕方多左衛門来り、味噌豆一釜蒸夕飯致ス
- 同廿七日 朝、多左衛門来り、味噌煮豆九斗・糍豆入五割金剛寺
弥三次。米壹表交易、塩豆入八割三国森田。壹表二付
八拾壹匁ちん三匁ツ、拾壹表直右衛門上納舟帰リニ積来ル
代銀運賃共直右衛門へ相渡ス
- 昨日 昼後。伝太夫高質入銀借用相談ニ三国加藤へ行泊り
- 十一月朔日 嶋加藤ニ滞留、夜羅漢へ行銀借用之旨頼ミ
- 二日 朝三国を出ノナカ小嶋へ立寄致昼飯、昼後兵庫へ出源五郎
方江立寄夕方帰村、小嶋江万寿式拾匁持参致ス
- (二五)
- 八日 森田寺。廻草、奥方様御病氣之処御養生無
御叶去ル七日卯下刻被遊御往生候、依之御葬式義ハ
来十一日巳ノ上刻御治定ニ相成此段御触達迄早々
如此ニ御座候已上、下森田寺役僧
村へ同行中
- 追而道場有之村ハ別段麻上下并白衣持参
二而御輿舁御頼申入度尚又十一日朝五ツ時迄ニ
御参勤被下度候様早々、以上
- 廿日 朝出福、供喜兵衛、寒氣御見舞、廻勤、出渕・鈴木重五郎
小倉とく三郎三軒黒豆壱升ツ、持参、外ニ村松へ寄、姓内願
相頼黒豆壱升持参、是ハ寒氣見廻ト云ニあらず、夕方帰村
森田寺秋廻御院主ふ快為名代光臨寺廻り、宿与兵衛
- 廿一日 方ニ泊り廿二日朝報恩講御勤ニ光林寺来り、銀拾匁光
臨寺江遣ス
- 廿八日 朝御講当番政右衛門・善六・甚右衛門・藤七・利太夫、五人参り、与兵衛不参
御膳壱盃ツ、出ス
- 廿九日 岩堀貞一病死
- 晦日 使ふさ吉被知ニ来り、泊り
- 極月一日 ふさ吉同道ニ而自分朝宮へ行、泊り
- 二日 葬式、泊り
- 三日 昼後源太郎調達下銀有之由為知ニ朝宮へ来り、夫。直ニ出福
源太郎ハ朝宮ニ泊り、自分牧安へ泊り
- 同日 牧安泊り、源太郎朝宮ニ而納骨参り致し

- 五日 昼後帰村、源太郎夕方朝宮へ帰村
- 七日 源太郎野中へ利兵衛よひ芳歳暮持参ニ而行、利兵衛留主ニ宿泊り九日帰村
- 八日 朝宮芳太郎相談有頼ニ遣ス、来り、泊り、ようかん壱箱土産もらひ
- 九日 芳太郎泊り
- 十四日 昼、夕方二度ニ右衛門方江よはれ、相客次郎兵衛
- 十六日 夜清兵衛方江よはれそは切、千代蔵相客
- 三月廿一日 福井永徳寺見エ泊り、法談致ス、手風呂敷一到来
勸化布施五拾匁上、廿二日池見へ行キ
- 四月十四日 信明院様御影御供高屋信行寺来り、泊り法話
- 十五日 御敬銀貳拾匁上ケ五匁信行寺江
- 六月六日 西袋村常然寺泊り法話、沈香壱袋もらひ
- 文札三百文菓子料遣ス